

元気なまちづくり市民会議を開催

10月3日(土)、若槻小学校で「元気なまちづくり市民会議」が開催され、221名の参加がありました。地区の身近な課題を市長と話し合う場をつくり、今年は「前年度議題等の経過説明」、「地区提案議題」、「自由討議」の3部構成で行われました。

1. 前年度経過説明

①住民自治協議会の活動拠点の確保とコミュニティハウスの建て替えについて

(回答)

新規の建設は財政状況が厳しいためできないが、既存のコミュニティハウスを改修し、拠点として整備した。

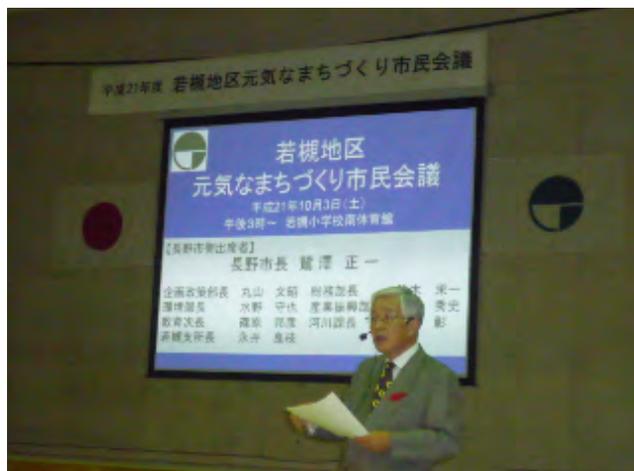
コミュニティセンターの大広間をフローリングに改修するとともに2室に区分し、利便性の向上を図った。

②土砂災害警戒区域指定と防災倉庫について

(回答)

今年の2月12日に県から土砂災害警戒区域の指定を受けて、今年度中に屋外スピーカーを4ヶ所増設、来年6月までに特別警戒区域内の住宅へ戸別受信機の配付を予定。

「土砂災害ハザードマップ」を関係地区の住民に配布予定(来年3月)



説明する鷲澤正一市長



提案する花岡武雄安全防災部会長

3. 自由討議

①市立長野高校の施設利用について

②若槻地区内の小集落地域のサポートについて

③児童館・児童センター等の有料化について

④北部地域への図書館の新設について

⑤ゴミ有料化に伴う不法投棄の防止について

4. 市長総括

住民自治協議会について、「自分たちのことは自分たちでやる」ということのできるから行い、市の「やる気支援金」や県の支援制度などを活用し、事業の視野を増やしたり、稼いだり行っていただきたいと思っている。

2. 地区提案議題

①頻発するゲリラ豪雨の水防の在り方について

若槻地区のように住宅化が進んだ一方で農業用水も残るような地区の大水対策について、行政、用水組合、地区が一体となったソフト面からの効果的な施策を行っていただきたい。

(回答)

農業用水をバイパスして浅川に放流する機能を発揮できるように関係する水利組合と調整を図る機会を早期に実施したい。

大型店舗の雨水流出対策については、市の要綱によって地下浸透施設や貯留施設の設置を指導している。

里城公園の親水公園への用途変更は、水利組合、地元等の同意が得られれば可能であるが、公園整備は要望が多いので年次計画により進めている。

②遊休農地の活用について

「コミュニティわかつき」では、遊休農地の活用策としてコミわか内にNPO法人を設立して、「団塊世代」の大量退職者などミニ農業や家庭菜園を趣味にする人達の希望や夢を実現するためのお手伝いをしたいと考える。そのため、市の積極的なバックアップをお願いしたい。

(回答)

市民農園の開設やサラダパークの指定管理など「コミわか」を中心とした遊休農地の活用策については、地域全体の取り組みとして模範的であり、関係機関と連携して積極的にバックアップしていきたい。

初期投資の資金面では、県の「地域発元気づくり支援金」の活用を検討していただきたい。